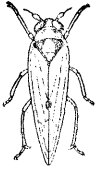


最近における中国農業(4)

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	田中, 稔
巻/号	31巻5号
掲載ページ	p. 232-233
発行年月	1976年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat





最近における中国農業(4)

田 中 稔

8. 自力更生の手本、中国農業

1) 昔陽県のすばらしい食糧生産 中国は農業を基礎とし、工業を導き手としており、常に農業を優先し、農業を援けるための工業に重点をおいている。第1期作水稲の収穫と第2期作の田植を同時にできるのもこうした「農基工従」の精神によって初めてできることである。中国では山西省昔陽県の大寨生産大隊を中国農業の手本として、各地で「大寨化」を進めている。1975年の9月中旬から1カ月間「大寨に学ぶ全国農業会議」を大寨と北京で開催し、1976年からスタートする第5次5カ年計画に合せて「大寨運動」を繰り広げることを決め、1980年までに全国の1/3の県を「大寨県」にしようとしているが、中国の食糧増産にかける意欲は驚くばかりである。

2) 徹底している水田多毛作 山と谷を整理して山岳地帯に人工平原を開発して増産に励む人民公社があるかと思うと、1毛作田を2毛作田に、さらに3毛作田にと、総合生産性を高めるために努力している中国農業をみると、食糧自給率向上に苦しんでいる日本農業の不甲斐なさが思いやられる。

3) 畜産に結びついている穀作 中国農業の今日あるは畜産と結びついている穀作のためであるといつて誤りはない。畜産の飼料として実によくわらやから(稗)を利用しており、人間の食う食物はほとんど豚に食わせていない。わらやからは豚の飼料となり、堆肥として耕地に還元されている。根や刈株すら無駄にしている。中国では豚のふん尿はとくに重要視されており、重要な肥料として利用されている。

人類は元来穀作があり、家畜があつて初めて安定した生活ができるようになったのではないか。

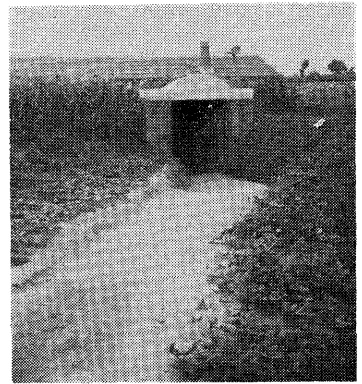
4) 重要なかんがい用水の確保 畑作ではしばしば水が肥料以上に重要な役目を果たことになる。とくに雨の少ない中国では水利施設に力を入れ、山に樹を植えて水源を涵養し、また畑に水を引いて干害の防止に力を入れている。大寨人民公社では、長さ100m、高さ30mの水路橋を造って虎頭山の中腹に水を引いているのは特別としても、川から水を引いたり、深井戸を掘るなりして、ほとんどの人民公社で、畑に水をかんがいできるように工夫している。

日本では畑地かんがいという、すぐ金をかけて水を

引き、スプリンクラーをつけて、相当な生産をあげないともうからないような施設をするが、大切なのは深井戸でも掘って水を確保することであり、あまり金をかけないで、必要に応じてどこへでも水を引いていけるようにした方が便利なのではないか。

5) 人民公社と密着している試験研究 中国における農業研究の特徴は、プロ文革以来研究者が広汎な群衆と一緒に研究をすすめる、農業の改良に積極的に寄与していることである。試験研究機関に勤めている研究員の1/3ないし1/2はいつも人民公社におもむいて研究をしながら農家とともに農業改良に努力している。

江蘇省農業科学研究所においても、江蘇省のいたるところに専門家の集団を派遣し、農村に住んで広汎な研究をしながら調査をすすめている。そればかりでなく、すぐれた農家を研究所に招き入れて学習班を組織し、農民との交流をはかり、農業研究を通じて相互の理解と農業水準を高めようとしており、同研究所の責任者は、指導者、労働者、科学技術者の三者結合の重要性を強調していた。



第1図 地下野菜貯蔵庫の入口(五三人民公社)

昔陽県農業科学研究所の活動方針をみるとさらに強く人民公社と密接しており、試験ほ場はいたって狭く、毛主席の科学路線にしたがって大衆とともに科学技術の研究をしているとのことで、人民公社に行つて農家とともに研究するのが主たる任務であり、人民公社にはこれらの研究者を迎え入れる組織ができている。すなわち人民公社には農業研究ステーションがあり、その下に農業実験グループがある。そもそも人民公社に農業実験グループができるようになったのは、大寨人民公社の経験を昔陽県を初めとする多くの県の人民公社に普及するために設けられたもので、その第1の任務が大寨式の見本土壌を造ることや品種改良をすすめることにある。

6) 昔陽県農業局の備蓄倉庫 私たちはとくに許されて昔陽県農業局の備蓄倉庫を見せてもらった。日本人で中国の食糧倉庫を見学できたのは私たちが初めてとのことで、特別の好意によるものである。写真やメモをとることは禁止されたが、質問には何でも答えてくれた。倉

庫は3棟あり、目測によると中央のものは長さ100m、幅16mぐらい、柱の高さは5mもあるか。他の2棟はこれより小さく長さは60mほどであった。耐火れんが造りで、壁の厚さは50cm、天井もこの程度の厚さで、土で堅めているということで、室内気温が30℃以上にならないような構造になっているとのことであった。ちなみに、上海人民出版社で発行している「糧食保管」によると、稲粃の保管安全水分は第3表のようになっており、稲粃の温度30℃内外の場合における安全保管水分は、早・中稲の粃（ジャポニカ）を例にとると14%以下となっている。

第3表 上海地区の稲粃保管安全水分
(上海人民出版社「糧食保管」による)

稲粃の温度	粃 稲 水 分 (%)		籼 稲 水 分 (%)	
	早・中 粃	晩 粃	早 籼	中・晩籼
30℃	14.0以下	15.0以下	13.0以下	13.5以下
20	15.0	16.0	14.0	14.5
10	16.0	17.0	15.0	15.5
5	17.0以下	18.0以下	16.0以下	16.5以下

注) 粃はジャポニカ、籼はインディカ、早・中・晩は早稲、中稲、晩稲の略。

私たちがこの倉庫でみたのはアワ、コウリヤンならびにトウモロコシの貯蔵であるが、アワ（精）は2年、トウモロコシは4年貯蔵したものであった。いずれも3mほどの高さにバラ積みしており、極めて乾燥のよい穀類ばかりであったが、アワは6年、トウモロコシは10年位貯蔵しても品質が変わらないとのことであった。私たちはバラ積みの上まで登って日本にない貯蔵風景を観察した。床は1m位高くなっており、倉庫の外もれんがで堅めてあった。

鼠は1びきもいないとのことであったが、なるほど広い敷地の周囲は高さ4～5mのれんがが塀で固めており、その内部の庭もれんがで敷きつめられ、鼠の隠れ場所になるようなものはどこにもおいていなかった。隠れ場所があるとすれば、倉庫の中にある麻袋に入った数個の穀物位であろうか。

日本では、粃の貯蔵には玄米貯蔵の2倍の倉庫が要るといわれているが、それは玄米と同じように俵に詰めて貯蔵しようとするからである。湖底貯蔵などといわずに、粃のバラ積み貯蔵法を考えた方が、はるかに安上りで実用的なのではないか。

中国の農業政策は自分の国の食糧はあくまでも自分の国で生産することを目標としており、農業倉庫の建設もそれに沿うものである。

9. 日本農業はこれでよいのか

農業資材を節減し、生産物を徹底的に活用しながら、狭い耕地からできるだけ多くの穀類や、野菜、果樹、畜産物等を総合的に生産しようとしている中国農業。供給圏を限定し、その中で生産と消費の合理化をはかり、地域経済の発展と独立を強化しつつある中国農業。自力更生、刻苦奮励、他人に頼らず生産増強に努めている中国農業の実際を見てくると、日本農業はこのままでよいかと反省せざるをえない。

中国農業を見て反省させられる日本農業の欠陥はなんであろうか。その一つはいうまでもなく日本農業が穀類生産の重要性を軽視していることである。それに家畜の飼料として重要なわらやから（稈）を粗末にしていることである。外国の飼料輸入によって生産される多量の家畜ふん尿を粗末にし、土壤に還元する熱意が不足していることである。それでは家畜の飼育化に必要な穀類の増産など金輪際できないのではないか。日本農業は農業の基本が何であるかを忘れてきているようである。

最近の日本の農家はもうかる作物だけを作って急いで出稼ぎに行き、手間賃にならないとみると、大切なわらさえ焼き捨てる。一方の政府は、重要な作物であっても、割当て以上に生産された穀類は必要がないなどといって、これを余り米などと称して冷酷な扱い方をしかねない。これでは農家も本気になって働く気になれないのではないか。

中国はレディメイドを大切にす。農業の特性として必要なときに必要なものを増産できないことが多く、いったん不作になると不作が続く傾向があるので、豊作の場合はこれを貯蔵し、また自国産のものではできるだけこれを消費して自国農業を積極的に守ろうとしている。

食糧を自給できるかどうかということは、要するに政府や国民の心構えによることが大きいのではなからうか。

日本農業は多くの日本人がよくいうように、非常にすぐれている面もあるが、欠陥もまた秘めている。とくに自然循環理論にもとるところが多い。その欠陥を補うために国民はもっと努力する必要がある。とくに為政者は、日本農業の基本がなんであるかを考え確乎たる政策を打ち出してほしい。国民生活にとって最も大事なものは食糧である。

試験研究がいかにあるべきか。これまた改善の時期にきているようにみえる。〈完〉 (青森県農林部顧問)